

国語
(書写)

(2) 国語 (書写)

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 言葉による見方・考え方を働かせながら、問題を見いだして解決策を考える学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 姿勢や点画の書き方、穂先の動き等の書写の指導事項を適切に身に付けさせるための工夫 (3) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (4) 国語科(書写)の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (5) 児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (6) 書写で学んだ知識・技能が国語科や他の教科、日常生活でも生きて働くような工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国語（書写）	新しい書写	2 東書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 「正しく整った字を書く」ために必要な知識・技能を「書写のかぎ」と名づけ、「書写のかぎ」を単元の核として、知識・技能の習得、活用を組み合わせた課題解決型の単元展開になるよう工夫されている。（3年P13等）
- 第3～6学年の左側ページの左側にインデックスとして「書写のかぎ」が掲載され、何を学ぶのかを意識して取り組めるよう工夫されている。（3年P13等）
- 書いてみて分かったことを話し合ったり（1年P11）、目的に合わせて筆記用具や書く速さをどのようにしたらよいかについての理由を説明したりする（5年P16、6年P14）等、他の児童と伝え合ったり話し合ったりする活動が取り入れられている。
- まとめや書き初めを除く全ての毛筆教材で、手本は一部だけでなく練習する字（言葉）全体に朱を入れた淡墨書きと書き順が示され、穂先の通り道がわかりやすくなっており、正しい筆使いが視覚的に理解できるよう工夫されている。（6年P12等）
- 書き方の言葉（「とん」：始筆、「すう」：送筆、「ぴたっ」：終筆の止め、「すっ」：はね）を全学年に掲載している。右側のページにお手本、左側のページに書き方のポイントが掲載されている。（3年P14、15等）
- 全学年において、書きやすい姿勢と、筆記用具の持ち方を写真等で視覚的に示している。特に、姿勢では「ぺた・ぴん・とん」の言葉が全学年で使用されている。（5年P6、7等）
- 第1・2学年用教科用図書の巻末に水書用紙が添付されており、水筆や絵筆を使った「はね」や「払い」等の筆圧の変化を伴う運筆で、手指の動きが体感しやすくなっている。
- 「ふり返って話そう」で、本時の学習のねらいに関して振り返る観点が示され、他の児童や先生との対話をとおして評価ができるよう工夫されている。（4年P10等）
- 巻頭に1年間の学習を見通す「書写のかぎ」のイラストマップが掲載されている。前学年で学習した「書写のかぎ」も併せて掲載されており、これまでの学びを踏まえたうえで、児童が新しく始まる1年間の見通しをもち、主体的に学べるよう工夫されている。
- 第2～4学年で、これまで学んだことを生かして、家族や地域の人へ手紙やはがきを書く単元が設定され、家庭や地域社会と連携した学びが行えるよう工夫されている。（2年P38、3年P40、4年P38）
- 漢字の成り立ちや世界の文字、文字に込めた人々の思い等が書かれたコラム「文字のいづみ」を全学年で掲載し、児童が文字のもつ力を感じるきっかけとなるよう工夫されている。（2年P28等）
- 国語の関連として、関連図書を紹介する「こんな本もいっしょに」で、読書指導の充実を図るよう工夫されている。（6年P39等）
- 活用単元の「生活にひろげよう」では、ノートやメモ、リーフレット、ポスターの書き方等、他教科の学習や特別活動等で行われる「書いて伝える」活動について取り上げている。（3年P26等）
- 各学年で、国語の教科書で扱う代表的な古典等を取り上げ、書写の学びを国語の中でも生かせるよう工夫されている。（5年P26等）

2 使用上の便宜

- タブレット等の機器を活用し、WEBページにある一覧から文字を書く姿勢や用具の置き

方、筆記用具の持ち方、点画のつながり等の運筆、文字の組立、手書き等を選択して動画で見られるよう、裏表紙や目次に二次元コードが付記されている。

- 版型はA B版のワイドな紙面であり、図版が大きく書き込み欄も大きい。また、マス目の大きさやリーダー線の有無、罫線等を各学年に合わせて変化させている。
- 第3学年以上の目次には、毛筆教材の手本の縮小版が示されている。
- 右利きのもち方だけでなく、左利きのもち方の写真も載せている。また、書き込み欄も利き手に関わらず教材文字が見やすいよう工夫されている。（1年P5、24等）
- カラーユニバーサルデザインの観点から色覚多様性へ配慮したり、ユニバーサルデザインの字体を使用したりしている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国語（書写）	みんなと学ぶ 小学校書写	11 学図

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 学習することを確かめ、自分の考えや他者との話し合い・意見交換等を通して書き方を習得する展開になっており、児童が見通しをもって学習できるよう「学習の進め方」で「確かめて書く」「考えて書く」「いかして書く」「振り返る」という学習方法を詳細に解説している。（2年P6～9等）
- 新しい学年の学習に入る前に、前学年で学習した内容を書き込みながら復習できるよう工夫されている。（4年P6～9等）
- 書けるようになるための見方・考え方として、書字のポイントを「書き方のカギ」で示している。（3年P13等）
- 着目させたい運筆について、朱を入れた淡墨書きや連続写真で示し、視覚的に理解しやすいよう工夫されている。斜めに穂先を入れることを意識して筆の穂先の通り道がわかるよう、始筆の部分に三角定規が掲載されている。（4年P16、17等）
- 気をつけたい部分に「書き方の鍵」マークがあり、説明を読んで考えながら書けるようになっている。右側のページにお手本、左側のページに書き方のポイントが掲載されている。（6年P26、27等）
- 第3学年以上の巻頭には筆の持ち方や下ろし方等が大きな写真とともに一目で見てわかるように配置されており、特に毛筆入門の第3学年においては小筆に特化したページが初めに設けられ、持ち方や使い方、片づけ方が写真と共にわかるよう工夫されている。
- 第1・2学年には、大事なところや気をつけたいところに貼るシールや、名前を書くシールが添付されている。
- 学んだことの振り返りとして、国語の教科書に載っている好きな俳句や四字熟語、自分が好きな学校行事等を書かせることにより、学校生活や日常生活に即して、学習したことを生かせるような振り返りを設定している。（5年P29等）
- 全学年の裏表紙に「保護者の方へ」の欄を設け、各単元で何が身につくかについて共有できるようにしている。
- 書き込み欄を豊富に設けることで、児童が書き込んだ教科書を持ち帰り、学校での学習を家庭で共有できるよう工夫している。
- 書写の学習に興味・関心をもって取り組めるように、第2～5学年に「なぜ？なに？書写の不思議」というコラムを設け、鉛筆・消しゴムの製造法、筆・墨の製造法等、書写に関する様々な話題を掲載している。（2年P29、36、37等）
- 全ての復習・まとめの単元を、書いて確かめられる構成に統一している。低学年には、楽しく学習意欲が高まるよう課題の発見を助けるシールがある。（1年P36～39等）
- さし絵のキャラクターに吹き出しがついており、基本的な技能や用語の解説、大切なポイントを示すことで、児童が着眼点や注意点に注目しやすいようしている。（3年P9等）
- 「書写の資料館」では、第1学年の「かんさつカードをかこう」（P44）、第2学年の「水ふでをつかってみよう」（P42）、第3学年の「ローマ字」（P47）、第4学年の「都道府県名を書こう」（P49～53）等、文字に関わる様々な資料が豊富に掲載されている。

2 使用上の便宜

- 姿勢や筆記用具の持ち方、ポイントとなる運筆等のページに二次元コードが付記されてお

り、WEBページの動画が見られるようになっている。また、いろいろな筆記具で書かれたものの写真や、書いた文字に重ねて形を確かめられる機能を二次元コードで読み込むことができる。(1年P2等)

- 学年やねらいに応じて、リーダー線に変化をつけている。
- 半紙原寸大の教材が充実しており、「骨書き」や「かご書き」等の練習がしやすくなっている。また、書初め教材も、開いてそのまま使える原寸大で掲載されている。(6年①折りこみ等)
- カラーユニバーサルデザインの観点から配色とデザインが配慮されている。
- 硬筆の教材文字と書き込み欄は、利き手を問わず練習できるよう配慮されている。(5年P16等)

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国語（書写）	小学 書写	17 教出

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童自らの課題解決に向けて、主体的に取り組めるよう、高学年に学習方法や課題を選択する教材を設けている。（4年P36、5年P8、6年P30等）
- 第1学年から教科特有の用語「書写の言葉」を学習し、話し合いや振り返りで活用できるようにしている。（1年P12、13等）
- 第3・4学年の全ての毛筆教材で、第5・6学年ではまとめや書き初めを除く毛筆教材で、手本の一部だけでなく練習する字（言葉）全体に朱を入れた淡墨書きが示され、穂先の通り道がわかり、正しい筆使いに着目しやすいよう工夫されている。（6年P20等）
- 始筆や送筆、終筆の穂先の傾きや筆圧が確かめられるように、筆跡の図が示されている。ポイントとなる筆使いは、写真を拡大して掲載している。（5年P13等）
- 全学年を通して書くためのよい姿勢を「こし ぴん」「ぐう 一つ」「足 ペた」の言葉で統一し、鉛筆や筆の持ち方、用具の置き方等を写真や言葉で示している。（3年P4～7等）
- 第1学年の巻末に水書用紙が添付されている。水書用筆（または絵筆）で書くことで、「はね」や「払い」等の筆圧の変化を伴う運筆で、手指の動きが体感しやすくなっている。また、筆圧をかけなくても線が書けるため、指に力が入って鉛筆の軸を握りこむといった持ち方を改善し、鉛筆で書くことにも生かすことができるよう工夫されている。
〔例〕「く」「つ」のなぞり練習ができるようになっているため、第1学年の教材「くつ」と同じ運筆が練習できる。
- 「学習の進め方」で、課題や学習プロセス、課題解決の方法等が示され、見通しをもって学習できるようにしている。（2年P6、7等）
- 第3学年以上では、基本的に「めあて」、「ためし書き」、「考えよう」、「ここが大切」、「まとめ書き」、「生かそう」、「振り返ろう」という流れが提示され、めあてから振り返りまでの流れが意識できるよう工夫されている。（3年P15等）
- 第2年学ではお世話になった地域の方への招待状（P32）、第4学年では学習発表会への案内状（P46）、第6学年では卒業文集への執筆依頼（P38）等、学年の発達段階に合わせて、はがきや手紙の文例を全ての学年で掲載している。
- 全学年に「知りたい文字の世界」のページを設け、「文字の歴史」等のテーマを設定して、文字への興味・関心がもてるよう工夫されている。（6年P18等）
- 第1・2・6学年に「はってん」を設け、先の学年や中学校で学習することに関心がもてるよう工夫されている。（1年P37等）
- 日常生活との関連の深い「横書きの書き方」は、児童の発達段階に応じて各学年で扱い、理科や社会科等で生かせるようなノートのまとめ方や算数のマス目ノートの書き方等、他教科で活用できるノート例を掲載し、書き方の参考にできるよう工夫されている。（3年P60等）
- 「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」のページで、教科横断的な学習活動や日常生活に学んだことを活用できるよう工夫されている。（4年P26、27等）
- ノートや新聞等を書く際の、見やすさや目の引きやすさ等を考慮した筆記用具の選択や、鉛筆の濃さ、筆圧等による表現の違いについて示している。（1年P42等）

2 使用上の便宜

- 第1・2学年では書く姿勢や鉛筆の持ち方、水書用紙の使い方等を、第2学年以上では折

れや払い、点画等のポイントとなる筆使いや手本書き等をWEBページの動画で見られるよう、裏表紙に二次元コードが付記されている。

- 毛筆の基本紙面は、右側の紙面で文字をよく確認し、左側の紙面で学習ステップを追いながらポイントを確かめることができる構成になっている。（5年P16、17等）
- 裏表紙には、全学年で「鉛筆の持ち方」の写真を掲載し、児童自ら確認できるよう工夫されている。
- 第3学年以上の目次に、毛筆教材には手本の縮小版が、硬筆教材にはレイアウト等のアイコンが示されている。
- 判読しやすいよう色覚等の特性をふまえた配色等が配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国語（書写）	書写	38 光村

- 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫
- 第3学年以上の巻頭見開きに学習の流れを写真入りで掲載し、「何を、どう学ぶか」をイメージしやすいよう工夫されている。(P2、3)
 - 第2学年以上では、「たいせつ」で児童が学習のポイントをひと目でわかるように示されている。(2年P6等)
 - 点画の書き方を繰り返し練習できるように「空に大きく書こう」(第1・3・5学年)(1年P44等)や「水ふでで書いてみよう」(第1・2学年)(1年P45等)を設けている。第1学年の巻末には、「水筆シート」がついており、水書用筆(または絵筆)で書くことで、「はね」や「払い」等の筆圧の変化を伴う運筆で、手指の動きが体感しやすいよう工夫されている。
 - 水書では筆圧をかけなくても線が書けるため、指に力が入って鉛筆の軸を握りこむといった持ち方を改善し、鉛筆で書くことにも生かすことができるよう「小」の書き順をなぞることで「はね」や「払い」、「とめ」を確かめられるよう工夫されている。
 - 着目させたい点画等を、朱を入れた淡墨書きで示し、正しい筆使いが視覚的に理解できるよう工夫されている。(4年P15等)
 - 第3学年以上には学習の進め方も記載され、見通しをもって主体的に学習が進められるよう工夫されている。(P2、3)
 - 全学年で、振り返りがしやすいよう振り返りのポイントが示されるとともに、第3学年には自己評価や相互評価に活用できるシールが付属している。(3年P12等)
 - 家の人に向けて招待状を書く(2年P32)、アイヌの文化について調べたことを新聞にまとめる(5年P22～25)等の活動を通して、家庭や地域社会との連携が図れるよう工夫されている。
 - 筆遣いや運筆のリズムを体の動きと擬態語で表現するキャラクターが随所に配置され、児童が直感的に理解できるよう工夫されている。(3年P12等)
 - 漢字の成り立ちを楽しいイラストで解説する「漢字図鑑」を全学年に掲載(4年P31等)したり、伝統的な言語文化への理解を深めるために、書き初めや文房四宝(筆、硯、墨、紙)(4年P43等)、文字の歴史(6年P27～29)等をコラムで提示したりする等、児童の興味・関心が高まるよう工夫されている。
 - 国枝慎吾さん(5年「インタビューメモの書き方」P12)や池江璃花子さん(6年「自分だけの一文字」P40)等、スポーツ選手等を取り上げ、児童に親しみのもてる教材が設定されている。
 - 手紙の書き方(3年P18、19等)や横書きの書き方(1年P23等)、ノートを読みやすくする書くためのポイント(4年P20～23)等、他教科等や日常生活でも生かせるよう構成されている。
 - 第1・2学年では生活科(1年P23、2年P32)、第3学年では社会科(P33)、第5学年では外国語科(P38)等、他教科との関連教材を豊富に扱い、教科横断的な学習ができるようにしている。
 - 第6学年では、小学校の書写の要素をまとめた「書写ブック」(P19～26)があり、国語や各教科の学習場面や日常生活で生かせるよう工夫されている。

2 使用上の便宜

- 姿勢、筆記用具の持ち方のページ（1年P4、6、9等）に二次元コードが付記され、WEBページの動画が見られるようになっている。また、第3学年以上にはまとめと書き初めを除く全教材のページ（6年P7等）に二次元コードが付記されており、それぞれの文字の手本書きを動画で見ることができる。
- 1教材1目標と学習する内容を焦点化することで、学習のねらいが明確になるよう工夫されている。
- 学年や学習内容に応じて、リーダー線の使い方を変えている。
- 目次に他教科との関連がアイコンで示されるとともに、第3学年以上には毛筆教材の手本の縮小版が示されている。
- 児童が明確に識別できる色の組み合わせや書体等、ユニバーサルデザインの配慮がされている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
国語（書写）	小学書写	1 1 6 日文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 第1・2学年では「この教科書の使い方」（1年P8、9、2年表紙裏）、第3～6学年では「書写学習の進め方」（P1、2）が示され、主体的な学びを促すよう工夫されている。
- キャラクターの発言等を記載することで、児童が興味・関心を高めたり、他者との交流が促されたりするよう工夫されている。（4年P18等）
- 「はね」や「払い」等の筆圧の変化を伴う運筆で、手指の動きが体感しやすいよう、第1・2学年には教科書から取り外して使用できる「水書きシート」が添付されている。また、児童が一目でわかるよう「水書きシート」の活用を推奨するアイコンが表示されている。（1年P12等）
- 水書きでは筆圧をかけなくても線が書けるため、指に力が入って鉛筆の軸を握りこむといった持ち方を改善し、鉛筆で書くことにも生かすことができるよう工夫されている。
- 正しい筆使いが視覚的に理解できるよう、書き初め等の一部を除く多くの毛筆教材で、手本全体に朱を入れた淡墨書きが示されている。また、正しい書き順を意識できるよう書き順が示されている。（5年P14等）
- 毛筆で書いた文字を硬筆で練習できるように、同じ部首のついた文字を掲載している。（6年P10等）
- 巻頭に前学年で学んだことと学年の目標が明示されており、当該学年で学ぶことの見通しをもつことができるよう工夫されている。
- 各教材の「めあて」と「できたかな（自己評価）」が示され、自ら学習の成果を振り返ることができるようになっている。（1年P10、11等）
- 児童にとって身近な日常（学校生活、学校行事、日常生活等）が多く題材に取り上げられている。（4年P33等）
- 伝統的な言語文化への理解を深め、文字に対する興味・関心を高めるため、文房四宝（筆、硯、墨、紙）や文字の成り立ちの資料を提示したり（5年P23等）、古典や文学作品が教材として取り上げられたりしている。（3年P31等）
- 「生活と書写」では、手紙や掲示物の書き方や原稿用紙の使い方等の書式が、具体的なポイントとともに掲載されている。必要な時に参照しやすいよう、第3学年以上では巻末に集約されている。（3年P44～46等）
- 「あったことをスピーチしよう」（1年P39、40）「お気に入りの本をしょうかいしよう」（4年P40、41）「提案文を書こう」（5年P36、37）等、国語科との関連を図った「国語の広場」が全学年に設定されている。
- 「国語の広場」で取り上げられている題材には、植物の観察（2年P36、37）、身の回りの生き物（3年P42、43）、防災・安全（5年P36、37）等の教科横断的なテーマが選ばれている。
- 豊かな言語感覚と語彙力の向上をめざし、「語彙」を扱った「言葉の窓」が全学年に掲載されている。（1年P22等）

2 使用上の便宜

- 各学年の、書く姿勢や筆の持ち方、毛筆用具の置き方や準備、片付け方、墨のすり方等の学習のページに動画再生アイコンが掲載され、WEBページで動画でも確認できるよう工夫

されている。(1年P2等)

- 毛筆基本紙面は、右側の紙面で文字の大きさや組立、点画のつながり、筆遣い等を学習してから、左側の紙面の手本をよく見て学習内容を生かしながら実際に書くことができる構成になっている。(3年P12、13等)
- 右利きでも左利きでも手本が見やすいように、書き込み欄が手本の下になるよう配慮されている。(2年P6等)
- 隣り合う色が識別しやすいよう、色の明度に変化をつけたり、白い線を間に挟んだりする等配慮されている。
- 活字を大きく太くするなど、児童が学習しやすいよう配慮されている。